

て、大学としての活動再開時のステージを上げることができると考えています。

4.<今後のリーグ戦について> **審議事項**（審議、①or②を決定し、4月上旬までに試合方式を提案、6月末までに大会要項を作成する。試合方式は継続審議とし、次回理事会で決定とする）

前回の理事会：昇格を目指しているチームに対して、何か補完できる方策を検討しているのかとの意見あり。

秋季リーグ戦は開催する方向で考えており、以下の2つの方法を提案します。学生の意見も反映させています。

① 通常開催

メリット：試合数が従来通り。

デメリット：3季間中止となったことへの配慮がない。実力があり春季リーグを開催していたならば昇格し、秋季リーグを上部リーグでプレイできたかもしれないチームに機会を与えられない。（これは仮定の話になります）

② 変則開催

すべての「部」において、下部の2チームをそれぞれ昇格させた上でリーグ戦を行い、下位2チームは自動降格とし、上部の下から3番目と下部の1位が入れ替え戦を行う。

メリット：4回生が最後のリーグで高いレベルでプレーができる点、入れ替え戦があり繰り上がり昇格しなかったチームもモチベーションを維持できる。

デメリット：1部リーグにおいて試合数が増加する。（試合方式の変更により、増加しない方向も考えられる）なお、昇格させる2チームは、直前の大会での各部の上位2チームとする。

こちらが採択された場合は、6部のチーム数が減少することが考えられるので、その場合は5部A Bに分けて開催することも考えています。

秋季リーグ戦が開催出来なかった場合

2022年春季リーグで下部の2チームをそれぞれ昇格させる。方法は、②と同じとする。

メリット、デメリットに関係なく：2年間開催がなされていないのでこの方法で開催することが望ましい。

2019年度の成績を加味して大会を開催するのは、原則2021年度の前期までとする。

（注）なお、コロナの状況によって、それぞれについての内容が変更となることがあります。

はできません。

体育館確保状況 太陽が丘：5/4,5、田辺：4/29,5/2,3,4,5,8,15

2.<西日本インカレ関連について> **一部審議事項**（今回変更のある部分のみ審議・決定し、大会要項を3月7日までに作成する）

前回の理事会：2020年3月の理事会において審議・決定した方法（原則2週間4節開催）で行う提案をし、反対意見なし。

2月19日に本年度の西日本インカレ主管である九州学連の三輪理事長と中川理事長との意見交換で、**5日間開催で実施する**との回答を得ました（3日間開催は考えていない）。その結果、男子13チーム、女子7チームに出場権が与えられることとなりました。開催されることは決まっており、上記のことを踏まえて**中止のできない出場決定戦（女子と男子2部）を短期間（原則2週間4節）で開催します**。この決定戦の開催方法について女子は2020年3月の理事会で決定した方法とします。男子2部は方法を変更しようと考えています（**審議**）。男子1部に関しては、全チームの出場が決定しており、シード権をかけての戦いとなるため昨年度行われた Substitute match の方法（3週間6節開催）で行おうと考えています（**審議**）。男子1部に関しては、万一、順延して期間内に終了できない場合の順位は、2020年度のスタートのものとしたと考えています（**審議**）。

決定戦の開催時期は、活動再開ができていない加盟校もあることからケガ等の防止を鑑み関西学連の練習再開ガイドライン[練習再開（全く動いていない状況）から約2ヶ月で試合OK]に則り**5月初旬開始を考えています**（**審議**）。前回も申し上げた通り、**大会期間中に万が一感染者が発生した場合は、大会そのものを順延しますが、5月末で終わらない場合は万全を期するために6月は開催せず7月に順延します**。

3.<出場決定戦以外の試合について> **審議事項**（審議・決定、各チームに伝達後、再度参加の有無を調査し、大会要項を3月14日までに作成する）

前回の理事会：何らかの形で大会を開催する。該当大学にアンケート実施し、検討する。反対意見なし。

関西学連の良いところは、加盟校全体で連盟の運営を行っていることです。昨年度前期は実施出来ませんでしたが、**出場決定戦に出場しない加盟校にも試合の機会を設けることが必要だ**と考えています。

男女の該当加盟校にアンケートを実施したところ2月20日現在での大会参加希望チームは、男子3部7チーム、4部4チーム、5部6チーム、6部5チーム、女子2部7チーム、3部4チームとなっています。学生からの意見も加味して、以下の2つの方法を提案します。

① 男女ともに各部で試合を行う。

メリット：実力が同等の相手と試合ができる。スムーズに運営できる。

デメリット：部によって参加チーム数が違うので試合数に差が出る可能性がある。

② 男女とも2つの部をまとめて試合を行う。

メリット：他部との交流戦ができる。

デメリット：あまりにも実力差のある相手と対戦するとモチベーションが下がる。男子に関しては、部によって使用球が違うので困る。電算などの組み替え作業が大変である。

開催時期は、2.と同じ時期と考えていますが、原則2.と同会場での試合は行いません。

なお、審判に関しては男子1部、2部、女子1部が担当する方向で検討しています。

この大会も短期間（2週間4節）で行うことを原則とし、感染者が出た場合は順延します。

活動出来ていない大学にオンラインでの個人練習など、学連ガイドラインに沿った活動を呼びかけることによ

文責：前競技部長 山崎

競技部関連の事前提示資料

1.<リーグ戦中止について> 今回決定（安心して開催できるエビデンス付きの意見が出た場合のみ審議する）

前回の理事会：中止やむなしの判断（反対意見なし）、だがコロナの状況が好転した場合は再検討する。

前回（1月30日）の理事会後、コロナの新規感染者数は減少して来ていますがそのペースは鈍化している感があり、医療体制もまだ万全ではない状態（ステージ3相当）が続いています。また、**コロナ変異株の感染者が大阪府で9人、兵庫県で24人、滋賀県で1人、京都府でも3人確認**されており、いずれも感染経路は不明で市中感染したとされています。また、変異株は徐々に全国にも広がってきている状況で、この感染率は従来のものより50～70%高いことが分かっており、18日に行われた厚生労働省の専門家組織の会合で変異ウイルスについて「急速に拡大する可能性が高い」との見解が示されました。

このことを考えると状況が完全に好転したとは言い難いのが現状です。緊急事態宣言が解除されると市中の人流が増えることは確実で、一般市民へのワクチン摂取が始まらない中ではいつ・どこで・誰が感染するか分からない状況が続くことが予想されます。また、2府1県に緊急事態宣言が発出されているために2月20日現在で課外活動の停止を余儀なくされているチームは39.7%、制限付きでの活動となっているチームは36.8%となっており、合計76.5%のチームが通常の活動を行っていないのが現状です。以上のことを踏まえて検討した結果、期間の長いリーグ戦の開催は、危機管理上開催すべきではないと考えています。

<関東学連と関西学連の違い> 上記関連事項（参考資料）

関東学連は春季リーグ戦の実施を決定したようですが、関西学連が右に倣えをすることができない理由を以下に記します。

	関西学連	関東学連
・リーグ戦運営 ・学連登録金	加盟大学全体で運営（徴収金含） 関西学連規約第3条で、「加盟校相互の協力の元、人間性の涵養を目的とする」と謳われているので部別でのリーグ戦の運営は行わない	・各部毎（男女も別）に運営 ・試合会場や審判の手配も各部毎 ・各部毎に振込先が異なる（男女も別）
試合会場	公立体育館&加盟校体育館 体育館の確保は非常に難しい	主に加盟校体育館 2019 春季リーグは1 試合以外全て大学体育館で実施 2019 秋季リーグは全て大学体育館で実施 専用体育館を持つ大学が複数ある
インカレ出場枠	西日本インカレで決定 （学連推薦1チームあり）	男子8チーム、女子8チームの出場が確約されている リーグ戦が途中で中止となった場合は、前年度の結果で8チームを選ぶ

関東学連は、インカレ出場枠をほとんど確定させているので万一リーグ戦が中止となっても影響はほとんどないが、関西学連は西日本インカレのシード枠争いや出場校の決定などの関係で中止することが出来ません。順延するとしても感染者が出た時の状況によりその日程が確保できるかどうか不確定である以上リスクを背負うこと